

<様式 1>

令和 4 年度 さいたま市立日進北小学校 自己評価書

校長 平塚 信也 印

1 学校で設定した「令和 4 年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 学習指導について、やる気を高める探求的学習（アクティブラーニング型授業）に挑戦する
- (2) 働き方について、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになる
- (3) 不登校、登校渋りについて、PC 室を自習室として活用し、できるだけ常駐の教職員等を置く
- (4) 危機管理について（自覚と責任）、おかしいと言える雰囲気を作ることでリスクセンスを磨く
- (5) 保護者対応について（スピードと誠実）、積極的に動き、トラブルに発展しないように動く
- (6) コミュニティスクールについて、地域・保護者と連携し、協働する機会を増やす
- (7) 教職員間の人間関係づくり、風通しの良い職場づくり、感謝のあふれる職場づくり、成長を認め合う職場づくり

2 評価結果について

- ・学校課題研修では「自分の思いや考えを言葉や図表などにまとめ、分かりやすく伝えることができる児童の育成」を研修主題に据え、児童の表現力育成に特化して研修を進めた。ICT 機器を積極的に活用したり、主体的な学びを深める工夫を凝らしたりするなど、多くの教員が授業改善に取り組んだ。学校評価では、「主体的・対話的で深い学びの実現に努めた」と回答した教員が 86%、保護者が 83.5%、「先生の授業が分かりやすい」に対し肯定的な回答をした児童は 98%であった。
- ・「よい授業」の 4 つの因子すべてが市の平均以上であった。因子④「児童生徒の活動（アクティブラーニング）」では、市平均を 1.2 ポイント上回った。
- ・学校評価「自分はやりがいをもって仕事をしている」では、89%（R3 比+5%）の教員が肯定的な回答をした。「よい授業」アンケート設問 18「先生が他の教科や世の中の出来事と結び付けて教えてくれる」では、3.56 ポイントであった。
- ・登校渋り傾向のある児童の受け皿として、学習室を設置した。地域住民の方々や大学生ボランティア学生が学習室へ滞在し、学習室へ来た児童と共に学習をしたり、会話したり、遊んだりした。学校評価「学校へ来づらい児童、教室へ入りづらい児童へ丁寧に対応している」では、84%の保護者が肯定的な回答をした。
- ・「GIGA スクール構想」実現に向けて、エバンジェリストが中心となり、タブレット活用研修を継続的に実施したことから、「ICT 教育の推進に努めている」の項目に対して、保護者は 90.3%（R3 比+4.7%）、教職員は 97%が肯定的な回答であった。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・各教科領域で「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、児童ひとり一人に「学ぶ楽しさ」を育むために、教員が更なる授業改善に取り組む。特に SDG s 教育、STEAMS 教育を通じて問題発見探求型の授業を構成していく。
- ・働き方改革を推進し、生き生きと働ける職場づくりを継続する。特に分掌組織の改善を続け、事務処理等の生産性を高め残業時間を減らしていく。
- ・コミュニティスクールを軌道に乗せ、年 3 回の学校運営教委議会とスクールサポートネットワークの連携・協働を進めより実効性の高い組織をつくる。

※ A 4 判 1 枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。